

民主島根

2022年
8.28
第1410号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

国葬、統一協会…自公政権と国民の乖離広がる 憲法守る政治へ草の根の運動を

出雲 仁比参院議員が60人を前に訴え



国会に返り咲いた仁比氏の訴えに聞き入る参加者（出雲市）

日本共産党中部地区委員会は21日、仁比聡平参院議員を迎え、出雲市で集いを開きました。約60人が参加しました。仁比参院議員は、改憲4党（自民・公明・維新・国民）が議席を増やし、メディアも改憲は現実的な課題と煽っていることにふれ、「3年ぶりの国会は様変わりしていた。憲法は国民のものであり、虚構の多数で改憲を押し進めることは許されな

い」と力を込めました。国葬・旧統一協会問題、新型コロナウイルス対策についても「自公政権と国民の乖離が広がっている。くらしと憲法を守る政治の実現へ草の根の運動を広げたい」と語りました。参院鳥取・島根選挙区候補として奮闘した党鳥取県常任委員の福住英行氏はあいさつしました。来春の県議選に挑む大



高宮政策企画局長に申し入れる党県議団ら（県庁）

国陽介県議も訴えました。県は旧統一協会と関係持つな 党県議団が関係調査など要求 日本共産党県議団（尾村利成団長）は1日、政治・行政との関係が問題視されている旧統一協会（世界平和統一家庭連合）について、県は一切の関係を持たないことを求める申し入れを丸山達也知事に行いました。申し入れ書では、旧統一協会は霊感商法や集団結婚など、社会的に多くの問題を起こしており、国民の平穏な生活を阻害する反社会的カルト団体と指摘。これ以上の被害を生じさせないため、旧統一協会及び関連団体と一切の関係を持たないこと、旧統一協会や関連団体の集会やイベントに、



尾村県議らは、政府は安保法制を発動した場合で「敵基地攻撃」はできるとし、日本が攻撃され

ました。（写真）尾村県議は、政府は安保法制を発動した場合で「敵基地攻撃」はできるとし、日本が攻撃され

市議が同席しました。新聞社やテレビ局など 出雲市議会研修会に協会関連講師 大國県議、党市議団が調査求める 日本共産党の大國陽介県議、後藤由美、吉井安見の両出雲市議は5日、旧統一協会の関連団体幹部を講師にした出雲市議会議員の研修会が企画され、講師選定の経緯などを明らかにするよう申し入れました。研修会は議会事務局が企画し、「子供達の健やかな成長と家庭教育支援条例の新たなこころみ」家庭教育支援条例の必要性

江 改憲と大軍拡は許されない 尾村県議ら終戦記念日宣伝 終戦記念日の15日、松江市では、日本共産党の尾村利成県議、舟木健治、橋ふみ両市議らが「不戦の誓い」の決意を述べました。（写真）尾村県議は、政府は安保法制を発動した場合で「敵基地攻撃」はできるとし、日本が攻撃され

鼓動 またも政治家の軽薄な発言が続いている。統一協会との関係を指摘される議員の言葉だ。「知らなかった」「呼ばれて挨拶しただけ」。挙句の果ては「何が問題なのか分からない」。萩生田氏などは「苦しんでいる人たちに少し思いが足りなかった」と述べたが、あまりに無頓着ではないか。何より、自民党の組織問題が明白であるにもかかわらず、他人事を装う岸田首相には為政者としての資質を疑いたくなる▼この「他人事」感覚は痛みやリスクを他者に転嫁する感覚が生む罪悪をめぐっては想起される小説がある。沖繩出身の作家石野径一郎による『ひめゆりの塔』だ▼作品中、読者は「内地がこんな目にあつたら、たまらんよ」という言葉に出会う。沖繩戦時下、主人公の女学生が幾度も気持ちを曇らされたこの言葉。これは沖繩の死闘と悲劇を他人事として突き放し、沖繩を本土の捨て石と見なす感覚が表現されたものであり、主人公のみならず多くの沖繩の人々を打ちのめしてきた▼戦後何年経とうが未だ癒えない過去の悲劇そのままの「現場」に今の暮らしがある沖繩。その現実の大元には沖繩に対する他人事感覚があるのではないかと胸が苦しくなる▼奇しくも今年には沖繩本土復帰五十年。来月11日投票の沖繩知事選が今まさに闘われている。デニー知事の掲げる「誰一人取り残さない優しい社会」の「やさしさ」とは文字どおり「人の愛い」に寄り添える力のことだろう。それは「他人事」とは対極にある感覚であり、痛みを「自分事」として捉える感性である。堅く連帯し、「オール沖繩」デニー知事の再選勝利に繋げたい。（江）